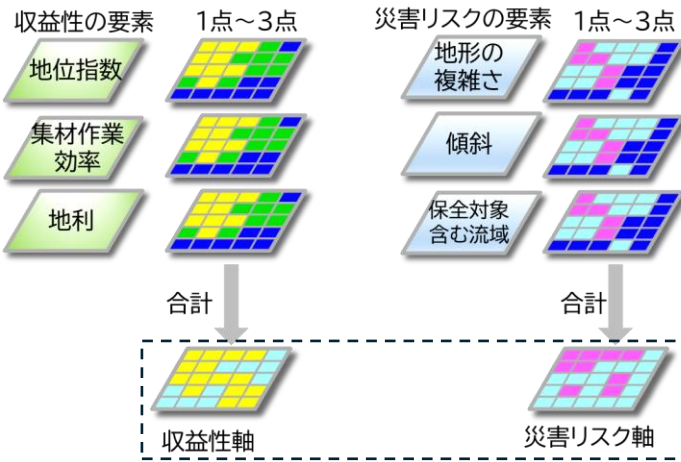


森林ゾーニング支援ツール(もりぞん)

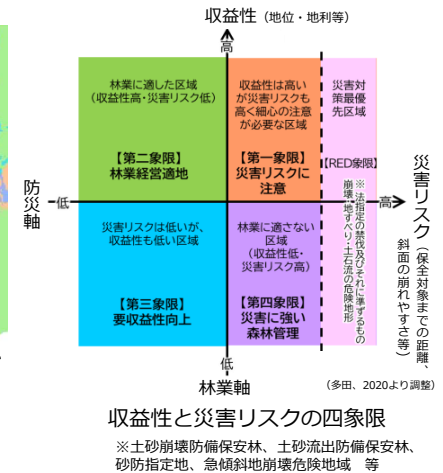
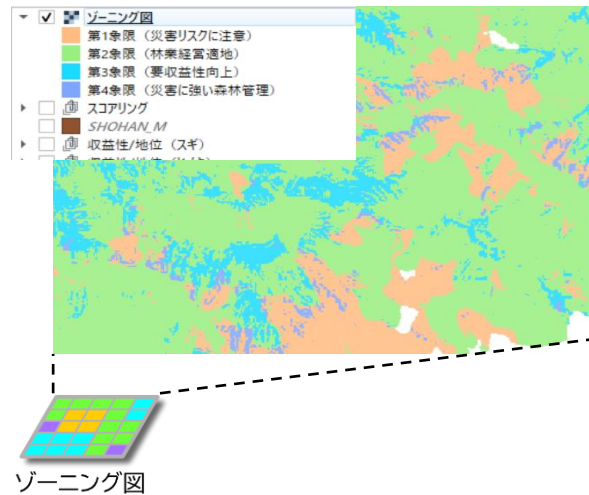
- 林業適地の抽出等を効果的・効率的に行うためのツールを林野庁で作成・公開（令和4年3月）。
- 林業の収益性の確保と災害リスクの低減を両立させる観点から森林をゾーニングし、GIS上に表示。
→市町村森林整備計画における効率的施業区域※の設定や路網計画等に活用。 ※「特に効率的な施業が可能な森林の区域」

＜ゾーニングの流れ＞

GISデータや航空レーザ計測の成果等を活用し、収益性の要素と災害リスクの要素を地図化して、メッシュごとに点数化。



点数を地図上で重ね合わせ、収益性が高く災害リスクが低い箇所や、収益性が低く災害リスクが高い箇所等に色分け。



■ 活用事例（効率的施業区域の設定：群馬県吾妻地域）

効率的施業区域の設定に当たり、「もりぞん」でゾーニング図を作成した上で、森林組合、町村、県で協議し、ゾーニング図に人工林率や山地災害危険地区のメッシュを重ね、区域を決定。



■ 活用事例（路網整備計画への活用：岩手県住田町）

林業専用道を開設する計画の作成に当たりゾーニング図を活用するとともに、作成した道の線形のデータを用いてゾーニング図を再度作成することで、林業適地が広がること（線形の計画が妥当であること）を確認。

